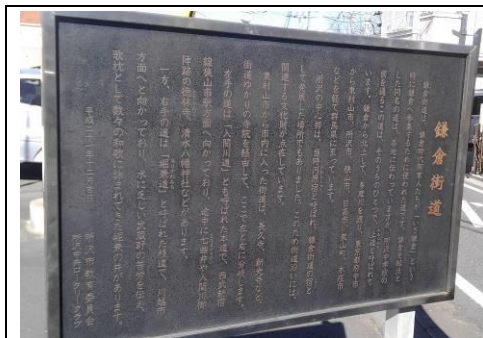


# 所沢宿から久米川宿

1月22日 (火) 晴れ

- ★ 昨年暮れから殆ど雨が降らず、新年になってからの降水量は1mmに達していない。この日も雲一つない青空が広がっている。風はやや冷たいがまずまずの散策日和である。
- ★ 源頼朝が鎌倉に幕府を開くと、鎌倉から関東各地へ通じる街道が発達した。主なものは、鎌倉から化粧坂を越え、武蔵国西部を経て高崎に至り、信濃・越後へ抜ける上道、鎌倉から巨福呂坂を通り、武蔵国東部を経て下野国から奥州へ至る中道、鎌倉から朝夷奈切通を越え、武蔵国東側の東京湾沿いを北上して常陸国へ向かう下道である。この他にも支道や枝道、連絡道などがあり、すべて鎌倉街道と呼ばれていた。  
これらの道は現在でも幹線道路として利用されている所あり、新興住宅街のなかの生活道路になっている所あり、昔のままに忘れられた山道もある。
- ★ 上道を鎌倉に向かって歩くシリーズを始めることし、今回はその第1回として所沢宿から久米川宿までを歩いた。上道は元弘3年(1333)に新田義貞が鎌倉幕府倒幕を目指して挙兵し、鎌倉へ攻め上る時に通った道で、小手指が原、久米川、分倍河原など新田軍と北条軍が熾烈な戦いをした古戦場がある。
- ★ 新所沢駅を左へ10分ほど歩くと広い県道6号線に出る。これが旧鎌倉街道の上道である。我々が歩いた道は上道から分かれて狭山市堀兼方面へ向かう支道・堀兼道である。交通量の多い県道6号を南へ向かう。道はなだらかな下り坂である。国道463号線との交差点「峰の坂」を越えて更に行くと左手に古い神社がある。所沢総鎮守であり、「関東のお伊勢様」とも呼ばれる『所沢神明社』である。日本武尊がこの付近で休憩した際に天照大御神に祈りを捧げたという伝説にちなんで祀ったとされているが、文政9年(1826)に起こった火災のため記録資料などが全て焼失して、それ以前のことは不明であるという。また1911年に日本最初の飛行場として開設された所沢飛行場において、その初飛行のパイロットとなった徳川好敏氏が前日に関係者数名とともに正式参詣したことから、今日では飛行機と空の安全を祈願する人も多い。



鎌倉街道の説明板



所沢神明社本殿

- ★ 神明社を出るとすぐ東川という小さな川があり、その手前を右に入ると突き当りに新光寺がある。中国風の山門を入ると大きな観音像が立っていて、その奥に法隆寺夢殿を模した朱塗りの八角堂が建っている。頼朝がこの地方で狩猟をしたとき、ここに仮屋を建てて休息し、後に田地を寄進してその仮屋に聖観音像を安置したのが始まりであるという。その後戦乱のため衰微していたが、新田義貞によって再興されたという。武蔵野観音霊場の第十番である。



- ★ 新光寺の前からは旧鎌倉街道の細い道が残っていて、200mほどで実蔵院である。江戸時代に2度の大火があって古い記録は残っていないが、戦前まで残っていた鐘の銘には正平7年(1352)に新田義興によって開基されたと記されてあったという。山門を入ると正面が嘉永年間に再建された本堂で、大日如来とともに聖観音が安置されている。武蔵野観音霊場の第九番である。この寺の周辺が鎌倉街道の宿駅で、江戸時代には市が立ち、織物の産地として盛んであったという。



- ★ 細い鎌倉街道を南へ下って来ると、所沢駅西口から伸びる大通りと所沢街道との丁字路「駒形」に出る。旧鎌倉街道はこの交差点を越えて更に南に延びているが、時間も午後1時に近かったので交差点の角にあるうどんの店『まるい』で昼食を取ることにした。埼玉県は香川県と並ぶ「うどん県」で、この店の手打ちうどんもコシがあって旨かった。東京と違ってうどんでもソバでも丼物でも量が多いので、食べきるのに苦労するほどで、女性陣は殆どが半分以上残していた。
- ★ 満腹になったところで鎌倉街道を更に南へ向かう。しばらく行くと左手に所沢南小学校があり、その校門の前にも「旧鎌倉街道」の標識が立っていた。広い校庭では数人の児童が遊んでいた。



が、この学校はなんと辻さんのお孫さんが通っている学校だそうである。小学校を過ぎると間もなく西武池袋線の線路に出た。踏切を渡り、左折して坂を下って行くと左手に長久寺がある。長久寺は元弘元年（1331）に玖阿上人によって開山された時宗の寺である。立派な仁王像が迎えてくれた。

- ★ 長久寺から5分ほど行くと「勢揃橋」というなんの変哲もない小さな橋がある。ここは新田義貞が鎌倉軍との決戦に備えて軍勢を勢揃いさせた場所である。その橋から15分ほど南へ行った所が新田軍と北条軍が激突した久米川の古戦場である。北条軍はここで敗れて鎌倉へ向かって敗走し、新田軍はそれを追撃することになる。小さな公園の一面に「久米川古戦場跡」の碑と説明板が立っている。古戦場の背後の小高い丘陵地は都立八国山緑地で、枯葉を踏みしめながらの気持ちの良い散歩道であるが、その傍らに「将軍塚」と書かれた石碑が立っている。新田義貞はここから戦いの指揮をしたと言われている。



- ★ 古戦場近くの「戦陣場橋」を渡った辺りが往時の久米川宿であったらしい。今は地方都市のごくありふれた住宅街である。宿のはずれに徳蔵寺がある。徳蔵寺は臨済宗大徳寺派の寺で、寛永12年（1635）に創建されたという。武蔵野観音霊場の第七番である。徳蔵寺には国指定の重要文化財である「元弘の碑」が所蔵されている。この碑には元弘の戦いの様子や新田軍の戦死者の氏名などが書かれており、太平記の記述を裏付ける重要な歴史資料である。碑は長久寺の玖阿上人が勧進をしたもので、元は八国山中腹の永春庵にあったものである。徳蔵寺に保存されていた板碑、石器、土器などを保存・展示をする板碑保存館がある。



★ 徳蔵寺から西武新宿線の踏切を渡り、線路沿いに行くと白山神社の小さな社があり、その向かいには少年野球場がある。野球場の前には鎌倉街道についての説明板があった。15分ほどで東村山駅に到着した。時間は4時半で、陽は西に傾き、黄昏が迫っていた。



金子正男さんの俳句です。

日脚伸ぶ 友勢揃い 古戦場

着ぶくれて 手打ちうどんの 店はこちら

参加者 奥野和雄、金子正男、小島恕雄夫妻、辻直邦、滑志田隆、水野聰夫妻、  
安村長生、臼井静江、中村仁美 以上12名

写真と文 小島恕雄